



平成 22 年 3 月 25 日
内閣府（防災担当）

中央防災会議「大規模水害対策に関する専門調査会」（第 20 回） 議事概要について

1. 専門調査会の概要

日 時：平成 22 年 3 月 18 日（木） 15：00～16：20

場 所：全国都市会館

出席者：秋草座長、河田副座長、岩熊、梅崎、岸井、小室、志方、杉田、田中（里）、
田村、松田、虫明、山口、山崎、山脇各専門委員
中井防災担当大臣、大森政策統括官、長谷川審議官、山崎参事官、青木参事官、
越智参事官 他

2. 議事概要

大規模水害対策に関する専門調査会報告（案）について事務局より説明を行った後、各委員にご議論を頂き、報告書（案）については、とりまとめを秋草座長に一任し、後日公表することが了承された。

各委員からの主な意見等は以下のとおり。

（主な意見）

- 北海高潮災害により田舎街だけでなく、ロンドンが浸水してテムズバリアという防潮堰が建設されたため、ロンドンがこの高潮で浸水したことを記載する必要がある。
- 2005 年に米国でハリケーン・カトリーナが発生したために水害問題を議論していることや、日本でも過去にカスリーン台風や伊勢湾台風を経験しているが、すでに忘れられていることなど、専門調査会での検討の背景を順序よく記載する必要がある。
- 高潮の被害想定について、シナリオ F では浸水深が 5m を越えるので、書き方を工夫した方がよい。
- 昭和 22 年のカスリーン台風が検討の対象となっているが、その後何十年も経て相当程度の治水整備が実施されており、カスリーン台風と同じ被害にあうような日本の国土事情ではない。治水対策は実施しているが、被害が発生する可能性があることを記載する必要がある。
- 2000 年東海豪雨の降雨は 350 年に 1 度の発生確率であったことや、利根川流域は都市化の影響を受けており、同じ雨が降ったとしても昔に比べて河川にたくさんの水が流出するようになったことを記載する必要がある。
- 概要版が単独で使われることも想定して、「はじめに」と「おわりに」に記載されている検討会の背景や重要なメッセージを概要版にも記載する方がよい。
- 本報告書を説明するための資料については、対策がきちんと検討されたというのが分かる資料にすべきである。

- いつの時代もその時代にふさわしい社会資本の整備の仕方があり、これからは維持管理の観点が大変大事になる。必要なものをこれからも作り続けることも大事だが、今まで作ったものをきちんと維持管理しながら適切に機能を発揮できるようにするという社会資本整備のやり方はどこかにきちんと書いてもらいたい。
- 本専門調査会の報告は、ハリケーン・カトリーナ等を踏まえ、災害発生時の応急対応に重点をおいてまとめたということで良い。
- 対外的に説明する際には、委員全員が共通して持っている強い危機意識を伝えてもらいたい。
- 関心を持って貰うのが大切であり、今回提案されたサブタイトルを報告書本編にも記載するものとする。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

地震・火山・大規模水害対策担当参事官 越智 繁雄

同企画官 岡村 次郎

同参事官補佐 青野 正志

TEL : 03-3501-5693（直通） FAX : 03-3501-5199